

令和2年度

病害虫発生予察特殊報(第3号)

令和2年7月30日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：ネギオオアラメハムシ（学名：*Galeruca extensa* (Motschulsky)）

作物名：ニンニク

1 発生経過

令和2年3月、県内のニンニク栽培ほ場において、葉を加害している種不明の幼虫がいるとの問い合わせがあり現地を調査したところ、ハムシ類と考えられる幼虫がニンニクの葉を食害していた（図1～3）。被害株から幼虫類を採取し、ニンニク葉で飼育し羽化個体を横浜植物防疫所に同定依頼した結果、本県ではこれまでニンニクへの加害が未確認のネギオオアラメハムシと同定された。

2 形態および生態

(1) 形態

成虫の体長は11～12.2mm、体は暗いオリーブ色で体腹面は黒色（図6）。前翅に黒色の隆起線がある。終齢幼虫の体長は約15mm。背面は黒褐色で頭部、肢は黒色（図4）。蛹は体長9mm程度で幅広く、黄色で密に刺毛を装う（図5）。

(2) 生態

3月下旬から5月に幼虫が現れ、2～3週間で老熟し蛹化する。5月下旬に新成虫がみられ、秋に産卵する。

3 被害および分布と寄主植物

(1) 被害

作物の新芽や外葉の柔らかい部分、枯れかけたところなどを好んで食害する。定植直後など、栽培初期に加害されると株が枯死することがある。

(2) 分布と寄主植物

北海道及び本州、朝鮮半島、シベリア東部、中国東北部に分布する。ネギ類、ノビルなどを食害する。

4 防除対策

令和2年7月27日現在、ニンニクにおいて本種に対する適用農薬はない。生育初期の被害は生育に影響するので、よく圃場を確認して見つけ次第取り除くなど物理的防除に努める。

(引用・参考文献)

木元新作・滝沢春雄、1994、「日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説」東海大学出版会
林匡夫・森本桂・木元新作、1984、「原色日本甲虫図鑑IV」保育社

(写真)



図1 被害状況（加害による欠株が見られる）



図2 加害されたニンニクの状況



図3 ニンニクを加害する幼虫



図4 ネギオオアラメハムシ幼虫



図5 ネギオオアラメハムシ蛹



図6 ネギオオアラメハムシ成虫

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7cnt/f450002/>